

高山市行政経営推進本部 第5回「DX推進部会」結果報告

【日時】 令和3年12月9日（木） 午後15時00分～16時45分

【場所】 高山市役所地下 大会議室

【出席】 21名

部会メンバー19名（うちオンライン参加1名）

外部有識者2名（うちオンライン参加2名）

【概要】

全5回予定のうち最終の部会を開催し、オンライン3名を含む21名の参加があった。

当市の計画策定に助言いただいている総務省地域情報化アドバイザーで、デジタル庁に民間人材として勤める下山氏よりオンラインにより国の動向やデータの重要性等を講義いただいた後、高山市DX推進計画の概要等を概説した。有識者からはそれぞれ計画内容、出来ばえ等について好評をいただいた。

その後、車座となり各メンバーが自らの想いを語り、今後の推進に向けた精励を誓い合った後、一本締めにより解散した。各メンバーからは概ね前向きな意見が聴かれ、部会の活動にある程度の成果があったと感じられた。

【詳細】

1. 開会

ここまで、ワークショップや課題への対応、有志によるWebセミナー聴講など様々な活動を重ねてきた。計画本文の決定、公表に至ろうとしており、各メンバーの協力に大変感謝

2. 話題提供（総務省地域情報化アドバイザー「下山紗代子氏」）

- 「デジタル社会の必須 インフラはデータ」と題し、下山氏の活動やデジタル庁業務などの紹介、デジタル技術の有用性、データの重要性などについて、スマホからの質疑に答えながら講義
- 「デジタル推進のためには、早く、たくさん失敗すること」が重要など

3. DX推進計画概要、次期メンバー募集予告について

資料に基づきポイントを概説するとともに、次期メンバーへの積極的な参加を依頼

（有識者よりコメント）

- 5回に渡りワークショップ等に参加し、自身としても勉強となった。
- 本文も良い内容となったほか、特に概要版が市の考えを分かりやすくまとめてあり、市民にも伝わりやすいと感じた。驚きとともに感心している。
- デジタル庁でも大事にしている「人中心」の考え方に基づき、伝わりやすいフォントや図表含め細部に渡って整えられており、努力が伺える。
- 公開後は、他の自治体にも見本として紹介させてもらう。

4. 意見交換「部会活動の振り返り」

(1) DX推進計画及び部会活動に関し、良かったこと、悪かったことなど

- 皆さんの協力により計画を形にできて感謝。一つの目的に半年間活動した同志・戦友のように感じている。
- DXに対する理解、関心が深まった。
- ワークショップを通じ、各課の抱えている課題等を知ることができ、気付きになった。
- 民間から行政に移り2年と浅いなか、様々な人から意見が聞けたことが良かった。
- 今年度手がけている計画策定でL o G o フォームを使ったところ、900件近い市民意見が瞬時にデータで集まり、非常に効果性が高いと感じた。
- 入庁1年と僅かで、自身の職場の状況しか分からないなか、様々な部署の業務や職員の意見を知ることができたのがとても良かった。
- 部会の目指すゴールに、自身が携われたという実感は心もとない。
- 業務により2回しか参加できなかったが、DXについて理解が深まった。
- DXの根幹となる考え方を知ることができたことが良かった。
- メンバーの意見が知れて、立場等が異なっても共通する内容があったため、市全体で進めるべき計画と改めて感じた。
- メンバーに指名され驚いたが、結果、非常に良い経験となって良かった。
- アナログで行っていた大量データを扱う業務のデジタル化が果たされた。
- 全く知らなかったDXについて、自分事として捉えることができた。
- 毎回参加はできなかったが、外部有識者の話を聞き、徐々に理解を深めることができた。
- L o G o フォームによるアンケートでは600件近く集まり、集計も楽だった。
- 外部有識者の話題提供等も聞け、楽しく参加させてもらった。
- 学びの機会を与えてもらい、とてもありがたかったが、導かれるまま最終回を迎えてしまった感があり、自主的な学習等がもう少しできれば良かった。
- 研修、交流に参加できる感覚で、部会が楽しみだった。
- 意識の高い、知識技術のある職員など、今後、相談できる人が分かった。
- データの重要性を改めて感じたり、セル結合などデジタルによる扱いにくさなど、気付き改善する意識を持てるようになり、一步成長できたと感じる。
- 自身の勉強不足もあり、デジタル庁など最先端の話は難しい面もあった。
- 6月の的場大輔氏を含めて、DXの先端に行く方の話が聞けて良かった。

(2) 市・市役所・仕事に関し、変えていきたい、改善すると良いことなど

- 保守的な意見に阻まれるといった事もあるかもしれないが、困った時は助け合って、市役所改革を一緒に進めていきたい。
- 各課の課題対応に向けても、気兼ねなく情報交換できる仲間と捉えたい。
- 新たな業務はデジタルに対応しているが、もともとあった業務はアナログで実施しているため、後者も見直していく必要性を感じた。
- DXは特定の所属ではなく、市役所全体が当事者となって進めていく必要があると感じた。

- セキュリティを理由に改革を断念する例があるが、これまでのルールを見直すことを含め精査が必要である。(例：外部からアクセスしてのテレワークなど)
- 市では既に様々なDXツール、環境を導入しており、一層の活用を進めていきたい。
- 古い考え方の組織を少しずつでも変えていきたい。
- デジタルに関する業務が特定職員に偏って配分され、年配の職員は怖がって手を出そうとしないため職場内で温度差や不均衡がある。職員に向けても分かりやすく、怖がる必要ないと伝えてほしい。
- 市民の記入する書類が多く、煩雑なのが課題。マイナンバーカードは保有することの怖さを心配する知人もあるため、高齢者も含め、伝え方の工夫が必要と感じる。
- 上司から「DXやSDGsを進めろ」などと抽象的な指示を受けることが多くなったため、管理職への研修会等も進めてもらいたい。
- ルールを変えるという話が出たが、国へ規制緩和や制度見直しを要望することもできるので、時期が来たら提案してもらいたい。
- デジタルツールを活用した業務改革（試行）の数々が、課内から要求されるレベルの高さから実現しなかったため、スモールスタートできる組織文化になると良い。
- RPAを業務に活用している。他の所属での良いシナリオ等があれば、庁内で共有が図られると各課での導入が楽になり、普及も進むのではないか。
- Eコマースやチャットなど民間サービスのような行政サービスが実現できるとすれば、非常にワクワクする。
- 扱い易いデータで作成するよう庁内統一されれば、効率化が進むと考える。

(3) 自分に関し、今後挑戦したいこと、心がけたいことなど

- 今日の下山氏の話にもあったように、データの利活用を進めていきたい。
- 担当業務において、デジタル技術を活用した課題解決を進めていきたい。
- 引き続き、知識や技術の修得を進め、ボトムアップの改革に取り組みたい。
- 全て新しいものではなく、部分部分で相応しいものを取り入れていきたい。
- 無人重機が現場作業する時代で、DXの流れに遅れてはならないと感じた。
- 自身の課の課題に対し、学んだことを活かして業務改善していきたい。
- これで終わりではなくスタートと認識して、一緒に進めていきたい。
- 手近な業務からデジタル化し、職員の負担軽減も図っていきたい。
- LogOフォームにより市民の声を聴き易くなっており、市政に活かしたい。
- 失敗も経験し、自らを成長させていきたい。
- 紙媒体に赤ペンの仕事をしているため、少しずつでもデジタルの利用に挑戦していきたい。
- 第1回の自己紹介で話したとおり、業務分野で地理情報をデータ化し、現場でもタブレット端末で確認できるよう、今年度中に進めていきたい。

(4) その他

- 岐阜県主催のオンライン研修の周知（各自治体から3名まで）
- 各回の案内が本人への通知のみだったが、所属長にもあると出やすかった。

5. 閉会

- それぞれに前向きに部会に関わっていただいたことが伺える内容を聴けて、良い活動ができたのではと安堵するとともに、感謝している。
- 部会のためからこのような話が違和感なくできるが、それぞれ所属に戻ると話が合わない、孤独を感じるような場面もあるかもしれない。一人で抱えず、今回のメンバー含め様々な人を巻き込んで、フォローし合いながら、少しずつでも良い方向へと導いていけると良いと感じている。

《計画に込められた想いや願いが多くの人々の心に届くこと等を祈念し、
「一本締め」により散会》

以上